

幻想日記短編 咽赤ト虚イ



mikatuki98

咽る

夜中に何度も咳をした。

疲れが溜っているせいか、少しでも寒いと気管支が苦しくなる。

そう言えば近頃、就寝が深夜2時を回っているから疲れが取れないのも無理はないか……。

今朝は目覚ましを9時にセットしていたが、タマゴ型の黄色い目覚ましのピヨピヨという音が鳴る前に、

再び咳で目が覚めた。

咽るような感覚。

お香の匂いが辺りに漂っている。

しかしお香を実際に焚いている訳でもない。

それでも喉が咽てわたしは咳込んでいる。

ぼんやりした頭の中に残っている映像。

誰かご近所の方が亡くなられたのだろう。

夢の中で人々が焼香に訪れていた。

了

赤いランプ

パッと赤いランプの光が窓越しに見えた。

救急車か！？

と、突然マイクで何かを訴える声が響いた。

「ナンバー〇〇〇の車…… 移動して下さい……」

急いで階段踊り場の窓から外を覗く。

あの車か……最近あの家の前に停まっているなと思っていた。

その家には車庫が無いから路上に止めるしかないのだろう。

しかし道路を隔てた前の家の車の出入りには多分邪魔になる。

「すみやかに移動してください！ 通報がありました」

通報……そうか、通報するという手だてがあったのか。

随分と時間が経ってから、訴えられた車は去って行った。

多分、親の家に泊まるつもりで来ていたに違いない。

あれから何処へ停めに行ったのだろう？

自宅に帰ってしまったのだろうか？

つつい他人の心配なんてしてしまう。

おせっかい！

誰かが耳元で囁いた気がした。

だけど瞬間的にそんな想念が浮かんで来たのだから仕方ない。

了

ドリームトリップ

天にまします父&母上さま、今日も一日マルミはアメデヨと共に健やかに過ごすことができました。

地上の父&母上さまも元気に今日の日を送りました。

でもマルミの腰が痛いのは玉にきずですが、銘酒<寒椿>を呑んだら痛くないような錯覚を起こすのは、

多分よかった探しの一つですよ？

それでも一つだけ残念なことを報告しなくてははいけません。

マルミは.....失.....

あ、もう日付が変わりました。

告白タイムが過ぎてしまったので、このまま虚しく眠ります。

今宵は火星なんぞにドリームトリップしたと思います。

念（おも）えば叶う不思議な空間への入口。

それが幻想です。

了

虚空を飛ぶ

実の実は虚？ 虚の虚は実？

本当は何も無いのに、さもあるように話し始める。

ところが元々何も無いから、自分で迷宮入りしてしまう。

そんな時は迷っつけ。

疲れたら天を見上げて一つしかない日月を目指せ。

子供のころブーンブーンと両手を広げて飛行機のまねごとをしていたのは誰だろう？

自分がやった記憶はないのに、ブーンと言えばそんな光景が目に浮かぶ。

持っていない翼を広げ、飛んでいるつもりになって、だけど実際飛んでいるんだな、これが。

つまりは虚の虚は実ってところ。

くだらない意地悪をする大人に疲れた大人は、ブーンと言いながら翼を広げよう。

実の実なんて虚なんだから、いつまでも砂嵐に視界を塞がれてははどうしようもない。

不幸せな大人たちの本当の幸せを願いつつ、ブーンと言いながら地を飛び立とう！

了

イリコ形の世界なりけり

多めのイリコで出汁を取りにけり。
大根もイリコくらいの形と大きさに切りにけり。
人参もイリコくらいの形に大きさに切りにけり。
イリコ出汁の中にイリコ形に切った大根と人参を入れにけり。
ガスの火で具が柔らかくなるまで煮るなり。
ぼちぼちなところで味噌を溶かし入れるなり。
お椀につぐ直前に小口切りのネギを入れるなり。
いわゆる味噌汁になりけり。

玉ねぎもイリコくらいの形と大きさに切りにけり。
ジャガイモはやや細めのイリコ型に切りにけり。
舞茸もやや大きめのイリコ型に切りにけり。
塩・酒・カレー粉で調味するなり。
ガスの火で具が柔らかくなるまで煮るなり。
蟹かまぼこの存在に気づくなり。
イリコくらいの大きさにほぐすなり。
追加で入れるなり。
ケチャップを加えるなり。
溶かし卵を入れるなり。
ざっくり混ぜるなり。
フライパンにオイルをしき直して焼くなり。
遂にはオムレツになりけり。

いずれのおかずも同じ具形の世界になりけりないたずらに。
吾知らぬ間に出来上がりけり。

了